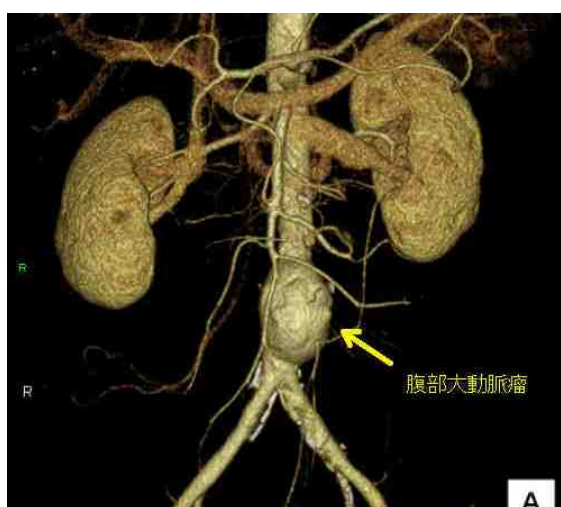


大動脈瘤

大動脈瘤は決してめずらしい疾患ではありません。現在、65歳以上の男性の4~8%に腹部大動脈瘤があるといわれています。高齢化が進めば今以上に多くの方がなるでしょうし、またCT検診がすすめば、より多くの方が指摘されるでしょう。

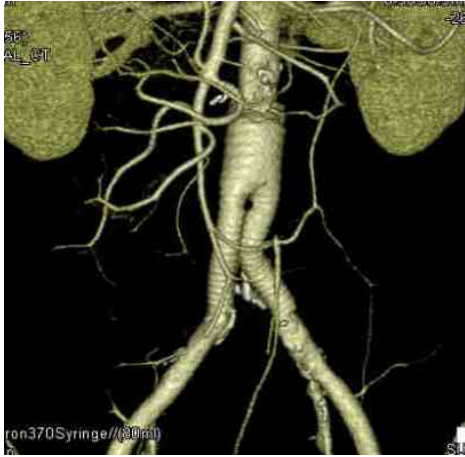
大動脈瘤の危険性は何でしょうか？ 破裂です、破裂するまでは殆ど症状はありません、ですので、CTなどで偶然発見されることが多い疾患です。単純なX線撮影ではわかりません。



腹部大動脈瘤の3D CT画像

大動脈瘤になる原因は、まだはっきりとは分かっていません、でも大動脈瘤をさらに悪くする因子は指摘されています。喫煙、高血圧、慢性肺疾患の合併などが大動脈瘤を悪くします、そのため、これらを厳密にコントロールすることが必要になってきます。また、瘤の形（嚢状、紡錘状、解離性など）、瘤の出来た場所（腹部、胸部、腹部でも腎動脈との関係など）、瘤の増大速度などが、治療に関係してきますのでCT検査が必須です。

治療は、手術、ステントグラフト内挿術、内科的治療（降圧・禁煙など）などです。最近、ステントグラフト内挿術を行える施設も増えてきましたが、大動脈瘤を切除するわけではないため、CTでのフォローが必要です。



手術後の 3D CT 画像

このように、大動脈瘤の診断、治療、その後のフォローのために、現時点ではCTが、特に、マルチスライス CT を使って得られる 3D CT が必要な検査となっています。このため、当クリニックでは、3D CT をいつでも使えるようにスタンバイいたしました。是非、ご利用いただきたいと思ひます。